

平成１９年度豊かなむらづくり全国表彰事業

近畿農政局長賞

おばたけ

大畑営農組合（奈良県葛城市）



大畑地区と小麦畑

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

大畑地区は水田を中心とした農業が営まれており、平成１０年頃は、地区内の生産調整達成率は７０％台であった。

生産調整面積達成を目的として県農林振興事務所や農協が転作作物として小麦の栽培を奨励し、加えて水路改修を中心とした土地改良事業の計画が進められたことが契機となって地区内の土地利用についての議論が活発になった。

集落座談会を重ねた結果、平成１２年頃には、水田転作作物として小麦栽培に取り組む生産者が増え、生産調整達成率も１００％を達成できるようになる。

このような中、小麦栽培の労働効率化と共同化をめざし平成１４年には、「大畑麦作組合」が設立され、平成１６年には、地区内の水田管理を含めた「大畑営農組合」が設立された。

（２）むらづくりの内容

住民の知識を結集した取組

営農組合結成時には、より多くの生産者の参加を促すため集落の生産者から出た疑問等をＱ＆Ａにまとめ、新たな営農組合に関する知識の共有を図った。

また、組合員それぞれが持つ知識を用いて経理税制面、法人化の対応等を行い、農機具のメンテナンスまで集落内で完結できる対応ができている。

農業生産、流通面での取組

地区内の農地を保全し、耕作放棄地を出さずに将来にわたって営農活動を持続するため組合を組織し、共同の農業機械を保有している。

また、地区外の刈り取り作業を請け負い、そこで得た収入をもって機械の償却費用に充てることにより永続的に共同機械を保有できるよう工夫をしている。

環境整備活動への取組

地区内の自治会等他の団体とともに生活・環境整備に取り組んでいる。

平成17～18年度は農地・水・環境保全向上活動支援実験事業の対象地区となり、引き続き平成19年度より5年間、「農地・水・環境保全向上活動支援事業」に取り組むこととなっている。

地産地消、食育への取組

地区内で収穫された小麦は、近隣の農産物直売所「農事組合法人當麻の家」で製造される加工品の原料として使用され、うどんづくり体験等を行っている。また、幼稚園児を招いて、イチゴ狩り、サツマイモ掘り等の体験学習を行っている。



小麦の栽培状況



「當麻の家」で販売される農産物



環境整備活動（飾花活動）



いも掘り体験